

トップ直撃

「子ども手当」をどうみますか

「比較的経済的に豊かでない」と塾に行けない、という格差をなくして自由に勉強できる環境をつくることは大歓迎。子供の教育にお金と手間をかけない国は滅びます」

子ども手当は学習塾にプラス？

「子ども手当」でうちに来てくれる方が増えるでしょうね。うちの場合、全室黒板付き、完全個室で1対1の個別指導ですから、集団一斉指導に比べるとそれなりの値段になってしまっんです」

塾の特徴は？

「従来は個別指導というと、勉強の苦手な子が行く補習塾という考え方でしたが、勉強のできる子にも苦手個所や苦手科目があると考えて大改革を行いました。その結果、個別指導塾

【会社×モ】個別指導塾「トーマス(TOMAS)」を運営するほか、小学校・幼稚園受験の「伸芽会」、家庭教師の「名門会」などをグループに持つ。本社は東京。1985年日本教育公社として設立、98年に現社名に。2009年2月期(連結)の売上高163億円、経常利益17億円。連結従業員数492人(09年2月末現在)。青少年スポーツや芸術文化の活動支援を積極的に行っている。



奨学金提供など社会貢献も

印象派絵画のコレクターとしても知られ、シャガール、モネ、ルノワールなど70〜80点を所有している。これらは「子供たちに本物の芸術品を見てもらいたい」と、長野県軽井沢町と組んで設立準備中の印象派美術館に無料で貸与する予定だ。また、早稲田大で奨学金を提供。「子供病院やアジアからの留学生向け奨学金など、広く世界に向けて社会貢献したい」という。

成績を上げる「プロのサービス」 オンラインワン指導

完全個別 3度の危機を越え

ではダントツでナンバーワンの進学実績で、難関校に入れてくれる唯一の個別指導塾というブランド評価をいただいています」

子供時代は？

「滋賀県の愛知川町(現・愛荘町)で育ち、川や野原で遊びました。両親は勉強に強い理解がありました」

が、勉強とは一度も言われませんでしたね」
教育に携わるきっかけは、

「心理学に興味を持ち、大学で専攻しました。心理学を突き詰めると子供の学

ワン教育 岩佐美次会長(60)

いわさ・みつぐ 1949年5月14日生まれ、60歳。滋賀県出身。早稲田大第一文学部卒。教育機器販売会社などをへて、85年日本教育公社(現ワン教育)を設立し、社長就任。2008年から現職。

【家族】妻の安子さん(56)と、愛犬「小次郎」(英国ゴールデン)。休日の買い物や年15回ほどのゴルフも安子さんと一緒に出かけるといふ愛妻家。「サプリメントの飲み方も妻から厳しい指導を受けています」

愛妻家、趣味は油絵

【ゴルフ】「90を切ったら好調」
【絵画】最近買ったのはミレーの「羊飼いの少女」。油絵を描くのが趣味
【健康法】自宅から会社まで約40分間歩いて通う。「歩いている途中でいろいろとアイデアが浮かびます」
【座右の銘】「人事を尽くして天命を待つ」
【もし今の仕事に就いていなかったら】家庭裁判所の青少年補導官かファッションデザイナーなど。



独立・起業直後の1986年ごろ

習や教育に行き着くんです」
創業の経緯は「教育機器販売会社をへて、学研の子会社にスカウトされました。教材販売主体からサービスに力を入れるべきだと提案しましたが、ビジョンが異なり、独立しました」
その後「3回の危機がありましたが、資金繰り危機と、1対6の少人数指導から個別指導への切り替えを社内発表して猛反対されたこと。そして、資金繰り対策で信販会社と行ったクレジット契約が途中で使えなくなること。いつ倒産してもおかしくなく、紙一重でした」

「プラスワンの教育」目指す

2010年2月期の業績を上方修正しました。好調の秘けつは「教育論」となるとみんな考えがバラバラになるので「うちがサービス業だ」と定義し、「体感が出ました。消費者が学習塾に求めるのは成績を上げる」と。それに応えるのが正義です」

目指すものは「世界で通用する人材を育てるには勉強以外にもう1つ別の教育が必要です。これがプラスワン教育です。各分野のプロが教えるようなカリキュラムを用意しています」

「民間の成功例を国に持ちかけ、日本の教育を変えたい。各界の識者を集めて『明日の教育を考える会』をつくる準備を進めています」(中田達也)



1985年1月、妻の安子さん(右)と